

西  
初<sub>川</sub>等<sub>文</sub>  
修<sub>仲</sub>身<sub>編</sub>  
書  
卷三

K110.1  
115  
4

西川文仲編

卷三

初等脩身書

大黒屋藏版

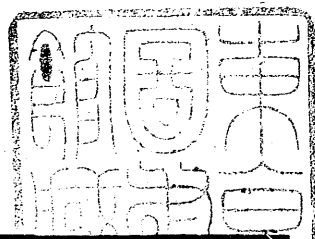
初等修身書卷三

西川文仲編

本朝は 天照大神

の 裔國なり。菅原

道真



卷三

天子より 庶人に  
至るまで みか  
身を 修るを  
以て 本と 為す。  
大學

人の 天地に 生  
るゝ 父母の外  
君恩 尤も 大な  
り。習是 編  
臣の 君に事ふる

猶子の父に  
事ふるが如し。

胡安國

人の心信實なる  
は萬事の基に

して人に交る  
の道あり。五常訓  
人の鏡とされ  
人の戒とあるを  
かれ。花園天皇

恥を知るものは

長じて、勇あり。

楠正成

不義の富貴は

貪るべからず。楠正

勝

身を立つるは學

を勉むるを以て

先とす。

學を勉むるは書

を讀むを以て  
本とす。五種遺規  
玉 琢かざれば  
器を成さず 人  
學ばざれば 道を

知らず。禮記

前車の覆へるは  
後車の戒なり。

漢書

富んでは 貧しき

者を 忘るべから  
ず。  
貴くしては 賤し  
き者を 侮るべか  
らず。

凡そ 一念 惡を  
思ひ 一事 惡を  
行へむ 天道に  
背く 恐るべし。初  
學訓

千里の旅も 一歩  
より 始む 志を  
立て、 道を學べ  
ば 遂に 遠大に  
至るべし。 大和俗

訓

道 近しと 雖も  
行かざれば 至ら  
ず 事 小なりと  
雖も 爲さざれば



成らず。韓詩外傳

精神 一たび 到

れば 何事か 成

らざらん。朱熹

善を積む 家には

餘慶あり。

不善を積む 家に

は 餘殃あり。易經

過ちては 改むる

を 憚る 勿れ。

過ちて改めざる

これを過といふ

論語

禍福門あり唯

人の招く所あり

り。左傳

人正直の道を

以てすれば神

必ず福を降す。管

原道真

人の道は敬にあ  
り敬は是れ  
終身の孝たり。  
信を人に取れば  
財の足らざる

なり。佐藤一齋

人 學問かければ  
忠孝にあやま  
りを免れず。松平  
定信

允そ 天地 父母  
主君 聖人の恩  
は 相並びて重し  
此四恩を 忘れ  
背くは 人にあら

ず 大和俗訓

悪事は 皆 我が  
私欲より 出づ 徳  
川家康

君に事ふるは 義

を行ふの始め  
親に事ふるは仁  
を爲すの始めか  
り。尾藤二洲  
善人を見て之に

倣ひ不善人を見  
て之を改む善  
と不善と皆吾  
師かり傳家寶  
人の富めるを見

て 親まらず 貧し  
きを 見て 疎ん  
ぜざるは 真の大  
丈夫なり。  
人の富めるを 見

て 進み 貧しき  
を 見て 退くは  
真の小人なり。願  
體集

明治十六年十一月十四日版權免許

正價金六錢

近刺教科書目

小學初等作法書

新撰小學書牘

初等修身書首卷  
授用

中等脩身書

新撰小學地誌

學校用珠算書

猶續々出版

編者

滋賀縣士族

西

川

文

仲

上京區第拾三組真如堂前町喜喜番地寄留  
京都府平氏

出版人

大黒屋太郎右衛門

上京區第廿一組下丸屋町三番戶

發賣所

京都河原町通二條下二丁目

教科書出版所

大黒屋書舖

卷三終

西

初

川

等

文

修

仲

身

編

書

卷四

K110,1  
115  
5